

U12カテゴリー準備部会長会議 説明資料【b】

2017年11-12月
都道府県協会U12カテゴリー
準備部会長会議

U12リーグ戦の推進

2017 ブロック別U12カテゴリー準備部会長会議
説明資料

2017/11 JBAアンダーカテゴリー部会

1. 育成改革がなぜ必要となったか
2. 改革者のリーダーシップ
3. アンダーカテゴリー部会とは？
4. リーグ戦のあり方（イメージ）
5. リーグ戦
 - ①意義
 - ②大会とリーグの位置づけ
 - ③運営と人的配置・設置手順
 - ④実施運営例
 - ⑤共通レギュレーション
6. 育成センター
7. その他

Why?

なぜ育成事業の改革が必要なのか？

世界に通用するバスケットボール 強化

世界基準を日常に取り入れる

世界を目指す環境

世界を視野に入れた指導を日常から行う



国内で活気あるバスケットボール 普及

バスケットボール愛好者を増やす
バスケットボールを楽しめる！上手になる！
日本代表が強い！応援する！



■ 育成世代における問題

- ・ 系統的でない指導
- ・ 過剰な競争
- ・ 練習が少ない
- ・ 大人と同じ競技スケジュール
- ・ 大人と同じトレーニングプログラム
- ・ 大人と同じ練習量
- ・ 男子と女子の年代におけるトレーニング内容が同じ
(発達は女子が早い)
- ・ 過程（取り組み方）より結果（勝敗）に焦点がある
- ・ 精神的に未熟な選手への過度の要求
- ・ 保護者のクレーム、結果が大切という価値観

■育成方針(育成世代で重要視すべき考え方)

- ・年代毎(習熟別) に練習内容を変える (技術・戦術練習の割合、量・質)
- ・ゲームを多く経験すること→トーナメントではなくリーグ文化
- ・バスケットを楽しませて将来に繋げる
- ・トライ&エラーをさせる
- ・技術を学ぶ年代 = 認知判断を伴う技術練習を多く、戦術練習の割合
- ・能力別 (飛び級) の環境 = 育成センターU12/U14/U16
- ・世界を目指した指導 = 誰もがオールラウンドプレイヤーを目指す
- ・年代別指導 (ラーニングエイジ) = 習熟度別に、易→難
- ・勝利至上でない = 勝利のとらえ方 = 結果だけではなく過程に焦点を当てる
- ・障害を引き起こさない, バーンアウトさせない
- ・LTAD (長期選手育成理論) を考慮
- ・人間教育、人格形成 = 人間力向上なくして競技力向上なし
- ・保護者教育 = 家庭でも選手がポジティブに成長 (栄養・精神的サポート)
- ・スポーツ医科学の利用

育成世代の選手にこれらを経験させていく環境づくり

↓ 実行していけば

将来は質の違ったプレイヤーが育成される

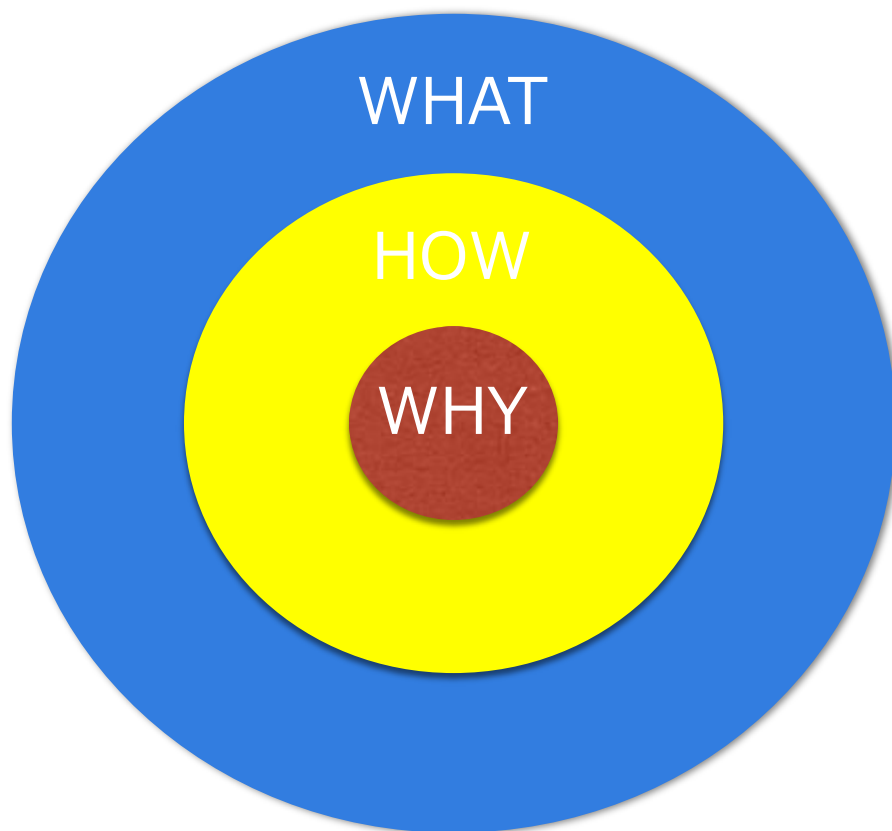
4つの変革

- ① 指導内容・育成コーチング啓蒙
- ② 育成センター設立
- ③ リーグ戦制度
- ④ 大会整備

特に「**コーチング:指導者教育**」が最重要課題であることを認識
(良いシステムを作っても指導者が良くなければ良い結果にならない)

Why?

改革を進める上で「なぜ行うか」が重要な理由



WHAT = 「何を」

育成センター、リーグ戦を

HOW = 「どのように」

経費処理、構成方法、スケジュールetc.

WHY = 「なぜ」

大義、目的、意義、やりがい・・・

「大義」が根本にあることが重要

「大義」を訴え続ける人が必要

伝えた大義

日本のバスケットボールを良くすれば
日本は良くなる

育成環境を変えれば
日本のバスケットボールは強くなり
さらに普及活性化が進む

皆でバスケットボールを
良くしようではないか

女子は世界でメダル！
男子も世界に通じる時が来る！



「夢＝大義」を皆で共有すること

「夢＝大義」がモチベーションになる
「何をやるか」よりも
「なぜやるか」で自分事になる

他人事ではなく
自分事になってもらう事が必要

選手たちを**最大限成長させるために**

■ 失うもの

- ・ トーナメント文化 = 勝たなければ次がない文化
- ・ 育成年代における勝利至上主義

■ 得なければならぬもの

- ・ リーグ戦文化 = トライ & エラー文化
= リーグを独自運営しようとする意識
- ・ 能力別に選手がトライできる環境 = 飛び級
- ・ 育成世代で達成すべき考え方

- 様々なバックグラウンドを持つ人々が本音をぶつけ合い、痛みや犠牲を伴いながらも**協力し合って課題に取り組む**ことが不可欠。
- 大切な何かを成し遂げたいという強い思いがあるときに、自分の役割や立場を超えて、**周りの人達の持つ力を引き出し**ながら、自らもリスクを取って課題を前進させることが必要 = **皆がリーダーシップを取り合っていくこと**
- 我々バスケットに携わる者が**自分の価値観や信条を問い直し**、痛みや喪失を受け入れ、**新たな見方や考え方を見つけること**によって自らの行動を変えていくことが必要
- 我々が自らを適応させながら課題に対処できるような力を作り出し、**抵抗や排除**にあいながらも**関係する人々をまとめ上げ動かして行く**ことが必要

- 難題に取り組み、成功するように人々をまとめ上げ、動かして行くこと
- 変えずに残すもの、捨ててしまっても良いものの見極めに人々を参加させること。
抵抗しているのは変化そのものではなく、変化がもたらす**喪失（失うことに対する不安・恐れ）**にある。
- 実験的マインドセットが不可欠 = **臨機応変に対処**することを学ぶ
- 喪失を生み出すことが多いため、喪失を診断する力、その対処法も知っておく
- **適応には時間がかかる** = **持続性**が求められる。途中で批判を受けることがあっても決して役割を放棄してはいけない。組織は結果が読めない変革に挑戦して多くの人にデメリットが生じるよりも**現状維持を好むのが普通**。
- 取り組みにより、組織の対応力が時間をかけて築かれ、新たな規範を生むプロセスが作られる

◎ 適応力が求められる難しい変革を実行して経験知とする

- 都道府県協会内でカテゴリーを超えて集まる機会を持って頂きたい
- 困難な問題に立ち向かうことへ結束を強め方法論についてシェアして頂きたい
- 難しいカテゴリー、難しい市町村や地区が出てくる
人々を適応させていくことに皆で協力をして頂きたい

ユース育成委員会										
委員長: PBAユース育成マネージャー●●●●●										
U12PBA			U15PBA			U18PBA				
コーチ		マネージャー	コーチ		マネージャー	コーチ		マネージャー		
男子	女子		男子	女子		男子	女子			
県	〇〇〇	△△△	□□□	〇〇〇	△△△	□□□	〇〇〇	△△△	□□□	PBA任命
地区A										PBA任命
地区B										PBA任命
地区C										PBA任命

事業運営担当部門は現状のユース育成組織を移行させる

アンダーカテゴリー部会								
組織長: ●●●●●								
U12部会			U15部会			U18部会		
U12部会長			U15部会長			U18部会長		
ミニ連盟	ユース育成M	中体連	中学生連盟	クラブ/Bクラブ	ユース育成M	高体連	クラブ	ユース育成M

※U15部会・U12部会にマンツーマン推進を置く。PBAマンツーマンディレクターも含める(2017現在)

PBAにおける競技会(大会)運営等を担当する

■ 都道府県内にユース育成関連で2つの組織を作る

- 1) ユース育成委員会 : 育成センター事業担当
- 2) アンダーカテゴリー部会 : リーグ戦・大会運営担当

<U12アンダーカテゴリー部会構成員（例）>

役職	氏名	備考
部会長		
副部会長		
U12ユース育成M		
マンツーマンディレクター		
競技担当		
審判担当		
財務担当		
運営担当		
運営担当		
地区担当		
地区担当		

<構成員としての例>

構成員
ミニバスケットボール連盟
U12ユース育成マネージャー
マンツーマンディレクター

<役職の所管事項>

部会長・副部会長	全体統括、委員会招集と運営、全体スケジュール策定、カテゴリー別事業計画（開催要項）、 交付金申請集約・精査渉外、（JBA/専務理事会/各種連盟/ブロック協会）、情報展開
競技担当	カテゴリー別競技規則策定、競技運営ルール、競技運営に関わる各カテゴリーとの連絡調整
審判担当	帯同審判制の策定（ニュートラル審判依頼制度の検討）、審判運営に関わる各カテゴリーとの連絡調整
財務担当	交付金申請の集約・精査、JBA申請手続き業務全般、県リーグ運営に関わる会計全般、競技運営部会計との連絡調整
運営担当	リーグ編成の策定、カテゴリー別リーグ戦の運勢主管（運営責任者の選定）、カテゴリー別事業計画（開催要項） 交付金申請書の作成/提出、スケジュール策定、会場策定、関係団体及びチームへの説明及び連絡調整
地区担当	カテゴリー別リーグ戦の運営主管、県および地区リーグの会場調整、地区内市町村協会との連絡調整 ブロック内審判員の確保

■ 岩手県リーグ推進委員会 構成

- ★委員長 : 競技運営部（高体連専門部委員長）
- ★副委員長 : 普及育成部総務担当
- ★委員 : 競技運営部総務担当（競技会委員長）、総務財務部（財務委員会）
審判部副部長（審判委員会）、審判部（審判委員会）
- ★社会人 : クラブ連盟委員長、教員連盟理事長、家庭婦人連盟理事長
クラブ連盟副会長（シニア担当）、クラブ連盟（競技委員長）、クラブ連盟（事務局長）
- ★U18 : 高体連副委員長（U18委員長予定者）、高体連専門部（3名）
- ★U15 : 中学生連盟理事長（U15委員長）、中体連委員長、中学生連盟
Bリーグクラブ、スクール関係（町クラブ関係）
- ★U12 : ミニ連盟理事長（U12委員長）、ミニ連盟（事務局長）、ミニ連盟（2名）
- ★地区 : 各地区代表（市協会等）

この構成に都道府県ユース育成マネージャーが入って
ユース育成事業との調整を図る



ミニ：
中学：全中予選
高校：IH予選

全国県予選に関連
育成を考慮したルール

上位校のみの予選認める？
トーナメント形式

リーグ戦化で失われるもの： 運営に携わる方の時間

リーグ戦化で得られるもの： 選手の経験 トライ&エラーの価値観 育成への気づき
日常に試合がある 勝利の捉え方の再認識

課題：リーグ編成方法 ブロック新人大会の扱い ブロックリーグ構想
前期リーグと後期リーグのつながり 後期リーグと県予選のつながり

■ U12 :

2018年度 : リーグ戦準備

2019年度 : リーグ戦化(推奨)

2020年度 : リーグ戦化

■ U15 :

2018年度 : リーグ戦準備 : 部活・クラブ混在大会実施検討

2019年度 : リーグ戦化 : 2020年3月にプレ大会(部活・クラブ混在、1-2年生対象)

2020年度 : リーグ戦化 : 2020年12月に第1回大会実施実現目標

※ 都道府県の実態に合わせて準備、実施を目指していただく

- 1 リーグ化の意義**
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

■ よりよい育成への変革

現行トーナメントの

育成年代へのデメリットの改善



① 全ての大会がトーナメントである必要はない

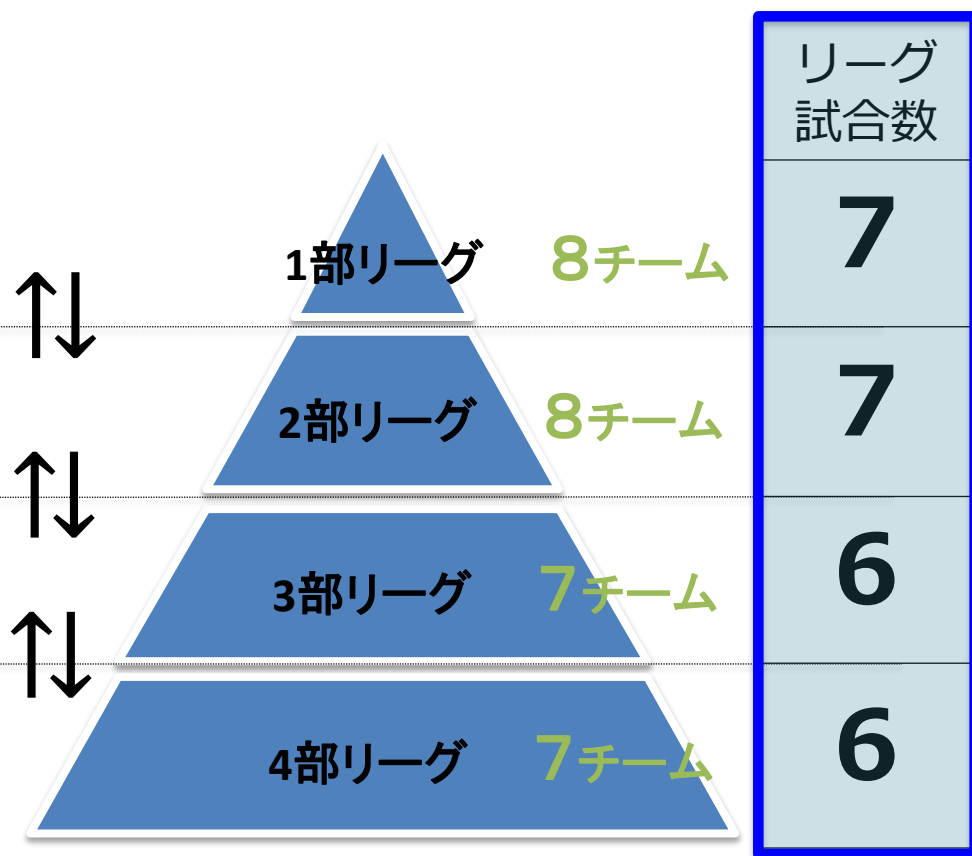
② リーグ化により選手として経験の場の増加

補欠文化からの脱却→**普及・育成**

③ リーグ化によりチームとして拮抗した試合数の増加

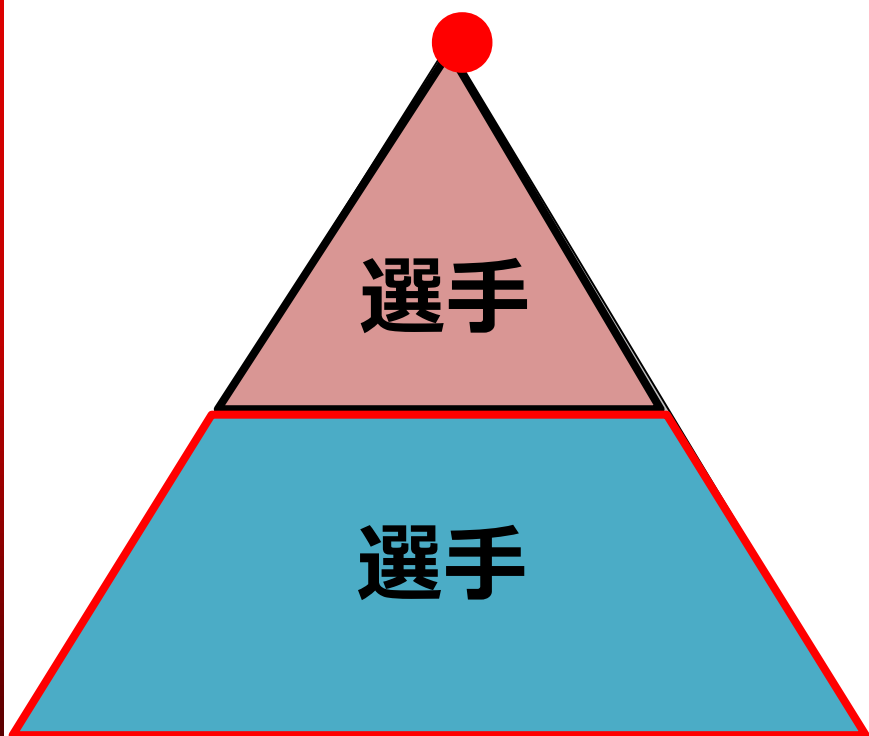
適正競技レベルでの経験値増加→**育成**

【育成】 実力の拮抗した試合の増加



適正競技レベルでの
試合が増加することで
拮抗した試合のなかで
経験値増加が見込まれる

【育成】選手ピラミッドを効率化する



選手(競技者)ピラミッド

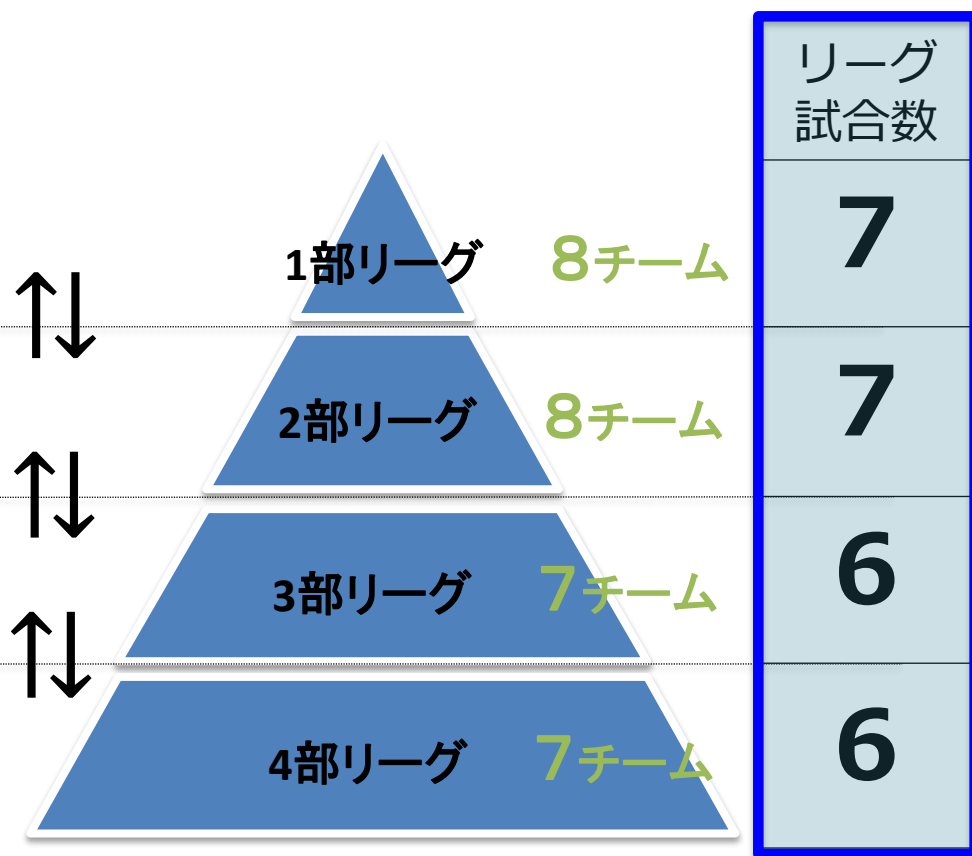
トーナメント文化

ピラミッドの上層のみ高める
下層は補欠となる

リーグ文化

ピラミッド下層に競争機会を作る
下層に出場選手として機会を作る

【普及】 一定試合数確保によるプレー機会の創出

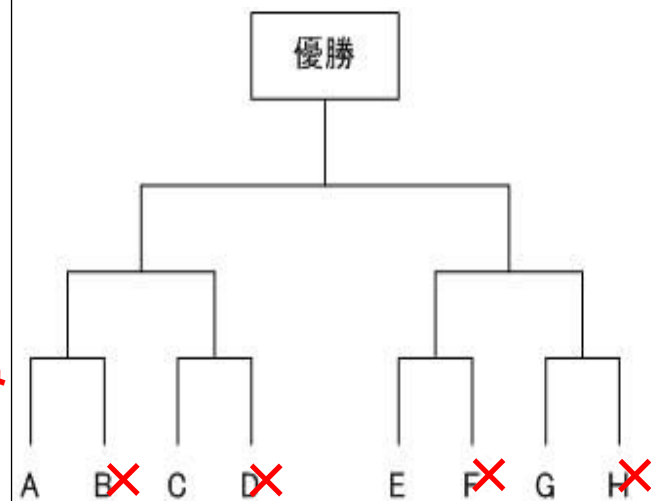


トーナメント
試合数

**最大
3試合**

※参加チーム

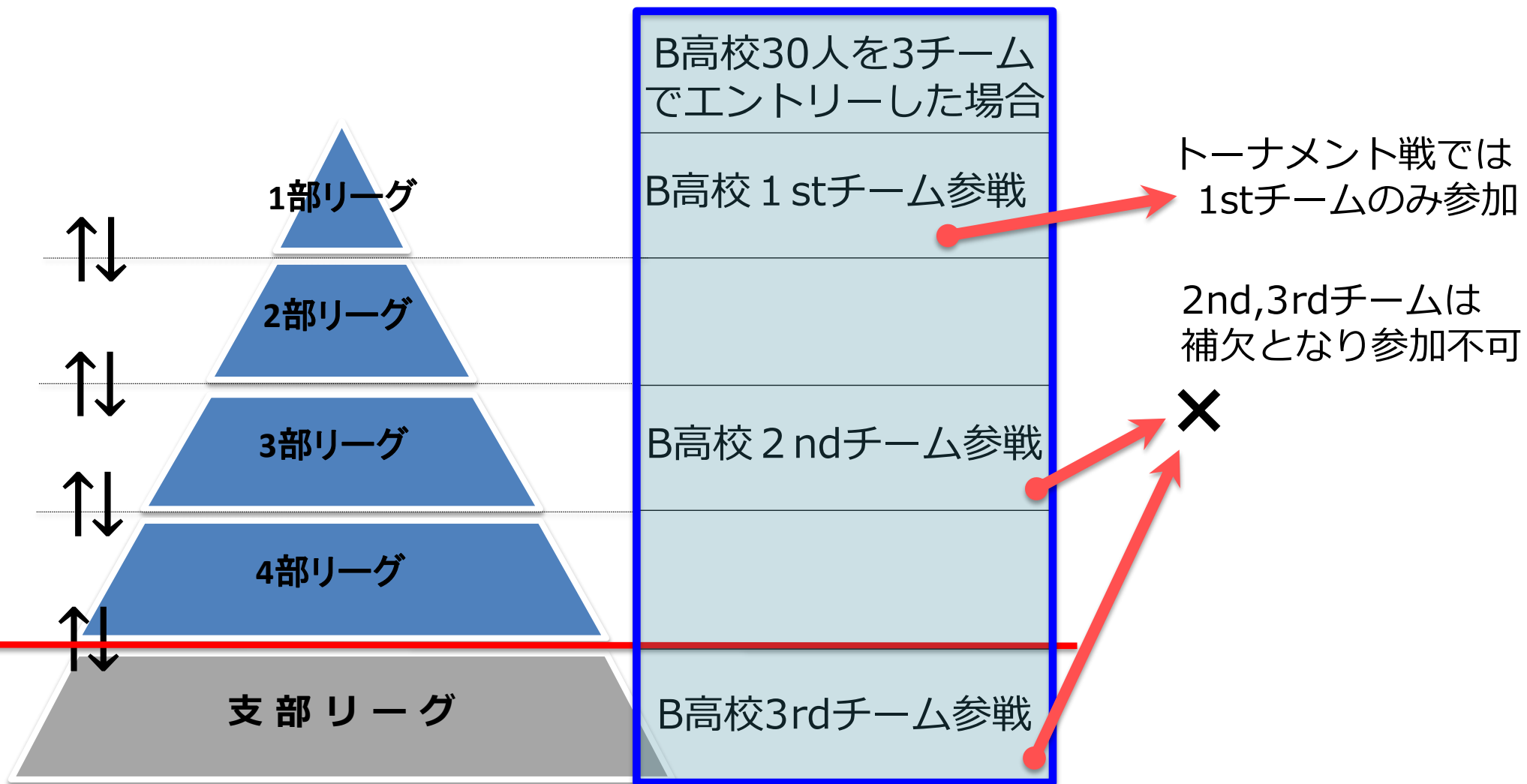
半数 1 試合のみ



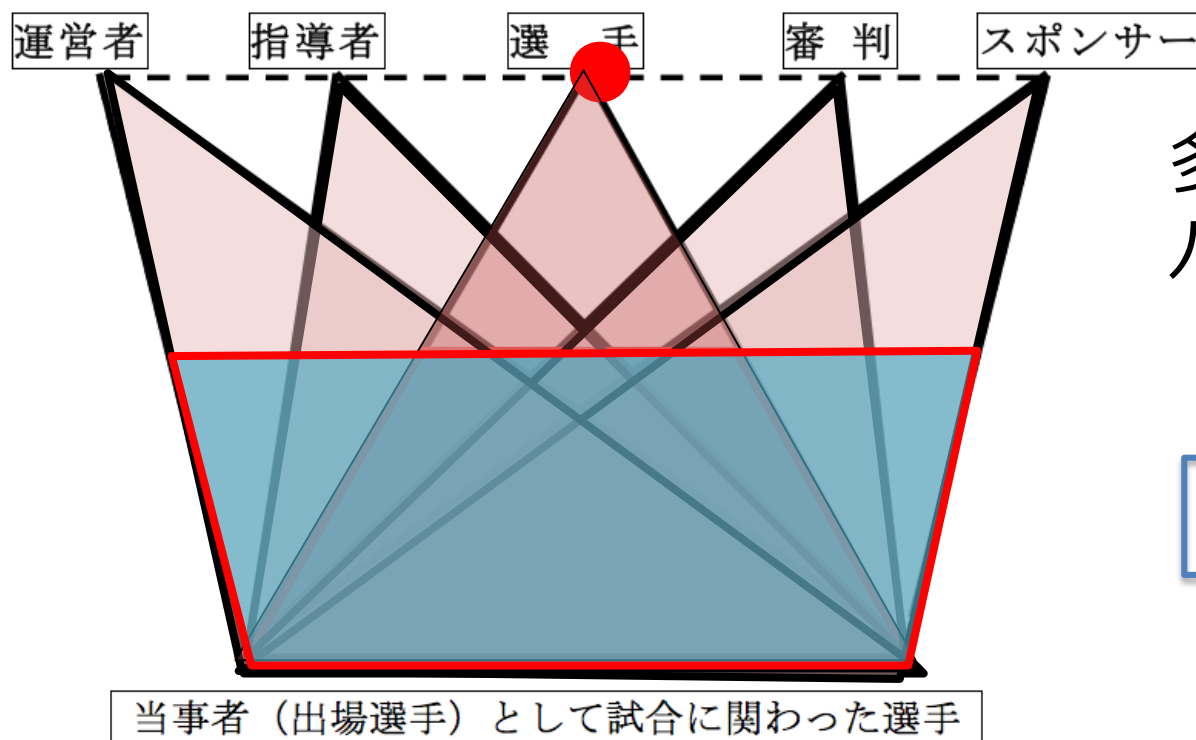
参加チームに対して一定試合数が確保される

【普及】 補欠をなくすプレー機会の創出

【複数チームエントリーのイメージ】



【普及】 バスケファミリーピラミッドの数を増やす



出場選手としての
競技との関わりの増加



多様な競技との関わり方
バスケファミリーの増加



持続可能な競技発展へ

■ リーグ化に伴う課題

リーグ化により以下の様な課題が想定される。

① 会場確保

試合数の増加による会場の確保

② 審判確保

試合数の増加による審判の確保

③ 日程確保

既存トーナメントと並行するリーグ日程の確保と調整

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け**
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

全国レベル

全国大会は継続して実施するものの、育成方針に則り、競技方式等の再検討を行う。

ブロックレベル

現行のブロック大会は、時期・規模・目的等が様々である。これまではそれぞれの背景や歴史を尊重してブロック任せであったが、全国大会の見直しとともにブロック大会のあり方についても検討を行う。

都道府県レベル

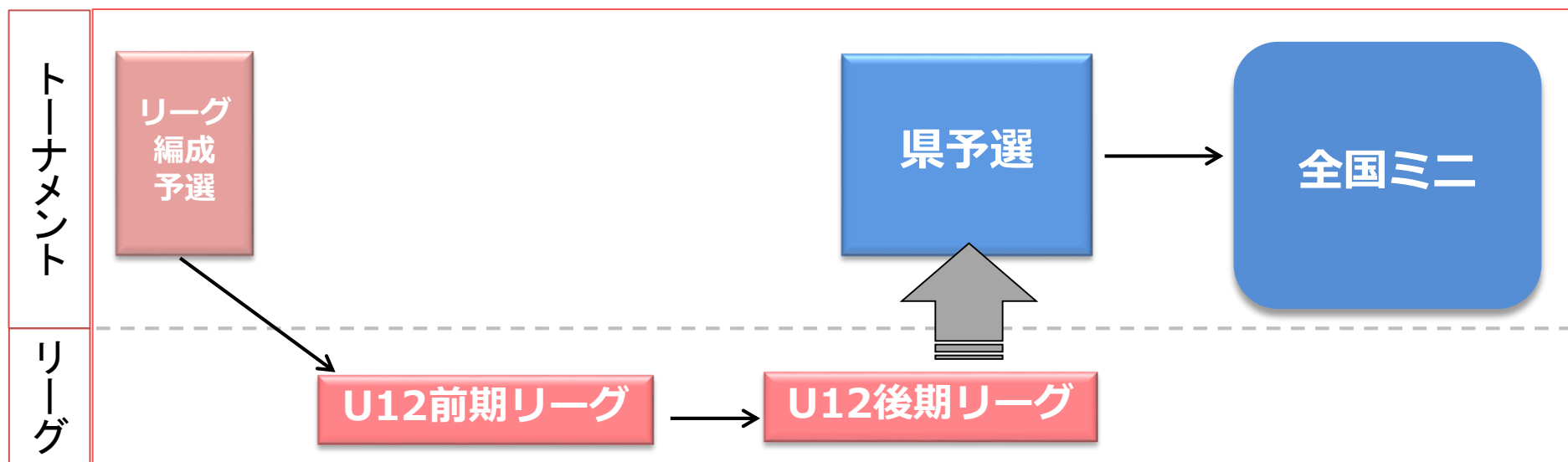
リーグ戦化の推進。
既存大会の見直しを含め、育成方針に則った競技会の再設計を行う。
U10、U8など、低年齢層の年代別競技会（レクリエーションレベル）の推進を図る。

■ 既存の大会とリーグの位置付け

	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月				リーグの位置付け				
週	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4					
U18																																																					既存トーナメントと独立した 日常に試合のある リーグを設置 将来ブロックリーグを設置予定
U15																																																	ジュニアオールスター 大会再編に合わせたJWC予選とつながる 日常に試合のある リーグを設置				
U12																																																	全国ミニ 既存トーナメントと独立した 日常に試合のある リーグを設置				

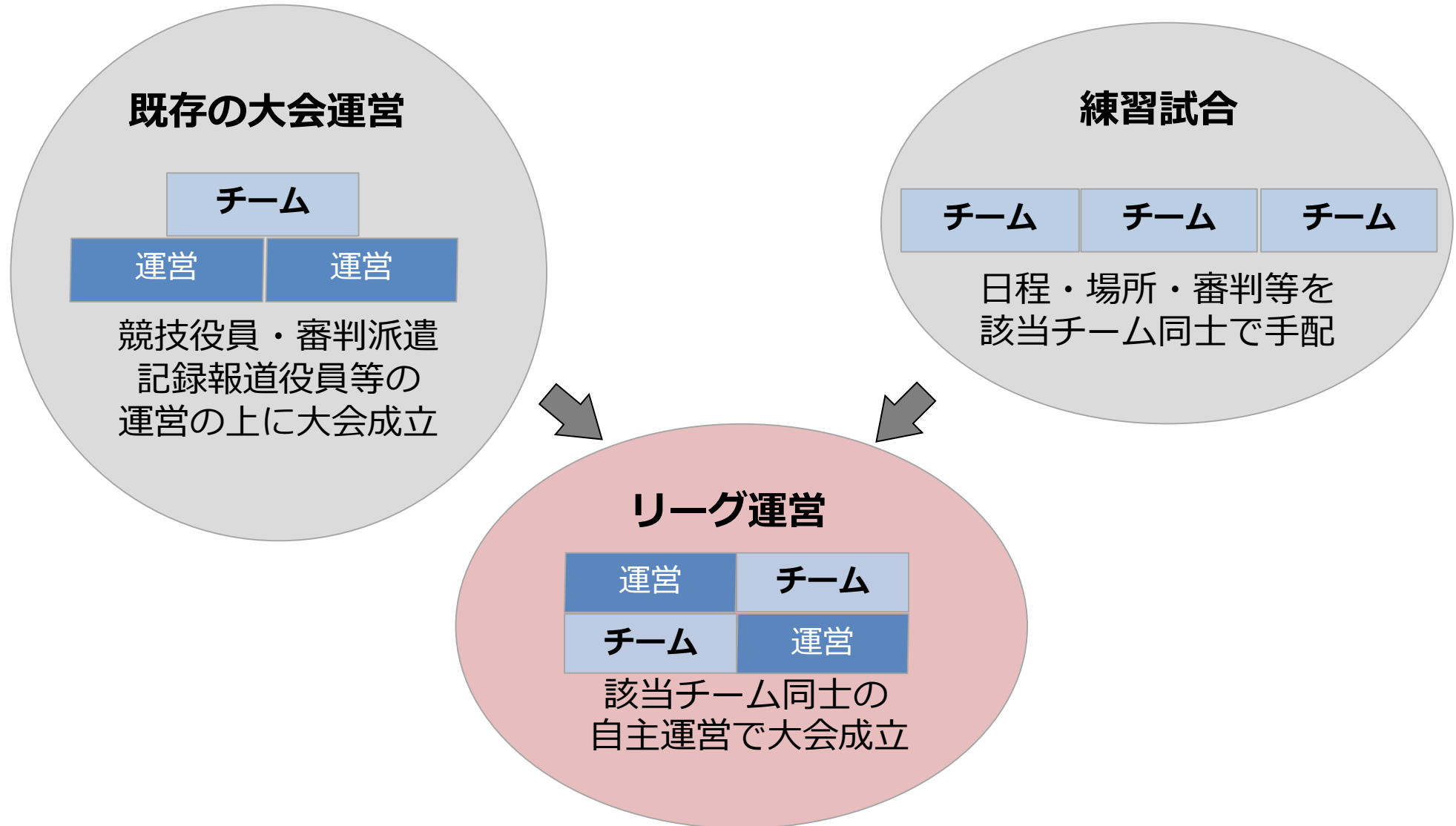
■ U12リーグとの関連

- 県予選はトーナメント形式で実施するが、予選の参加資格をU12リーグへの参戦を条件とする
- U12後期リーグ上位グループで県予選トーナメントを組む



- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順**
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方



■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方

「リーグ戦を日常にする文化醸成」実現へのリーグ運営

- ① 運営とチームを分ける考え方から、参加者同士が相互に運営をするという考え方へシフトする
- ② 運営を役員に任せるといった文化の脱却がリーグ文化醸成、バスケファミリーを増やす種まきになる

リーグ運営

常に運営者はチームでありチームは運営者である

チーム	運営	チーム	運営
運営	チーム	運営	チーム

勝敗に関係なく参加チームとしてゲームと自主運営を継続

■ 都道府県リーグスタートに向けた運営の考え方

「リーグ戦を日常にする文化醸成」実現へのリーグ運営

リーグ運営

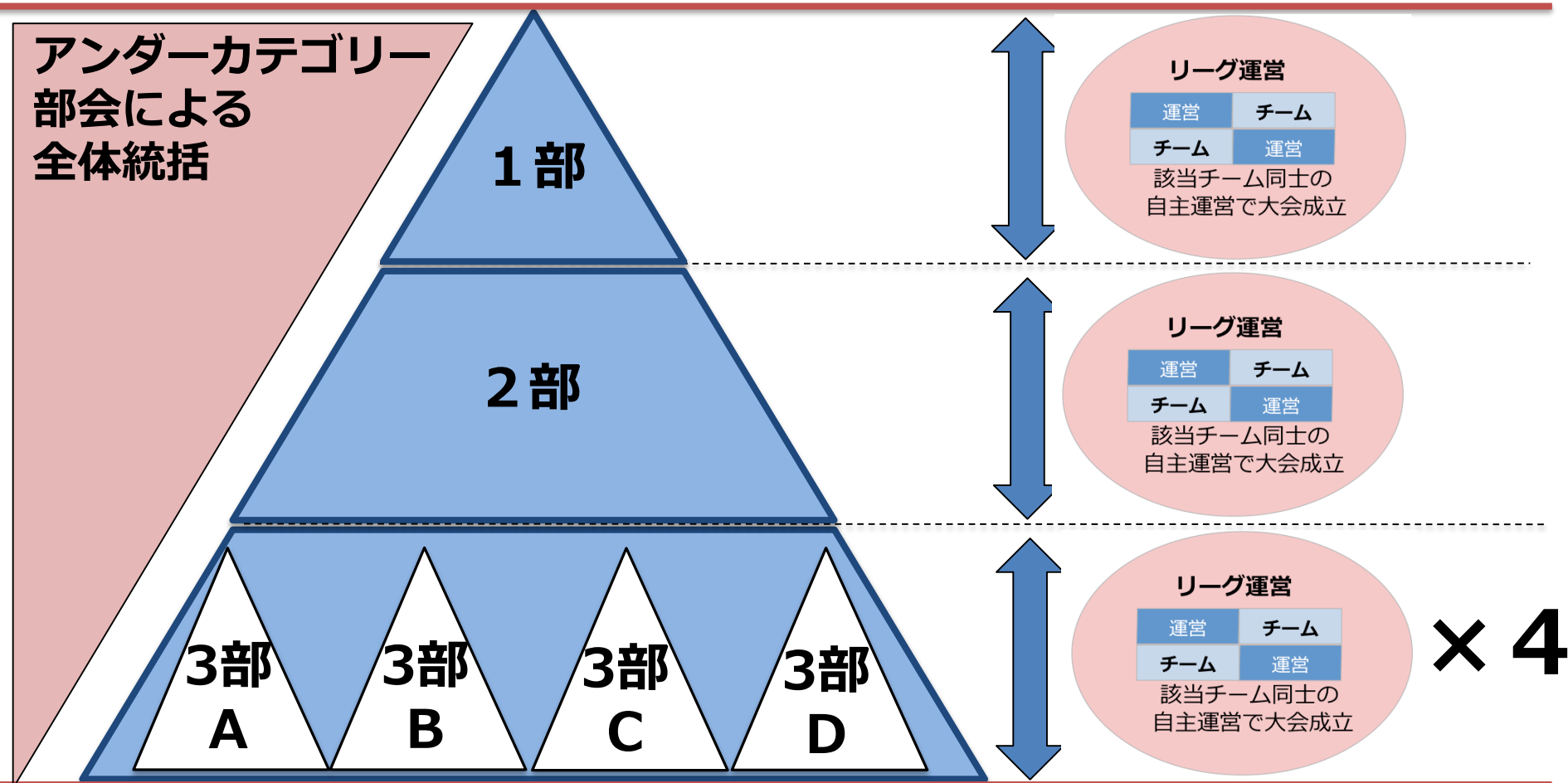
常に運営者はチームでありチームは運営者である

チーム	運営	チーム	運営
運営	チーム	運営	チーム

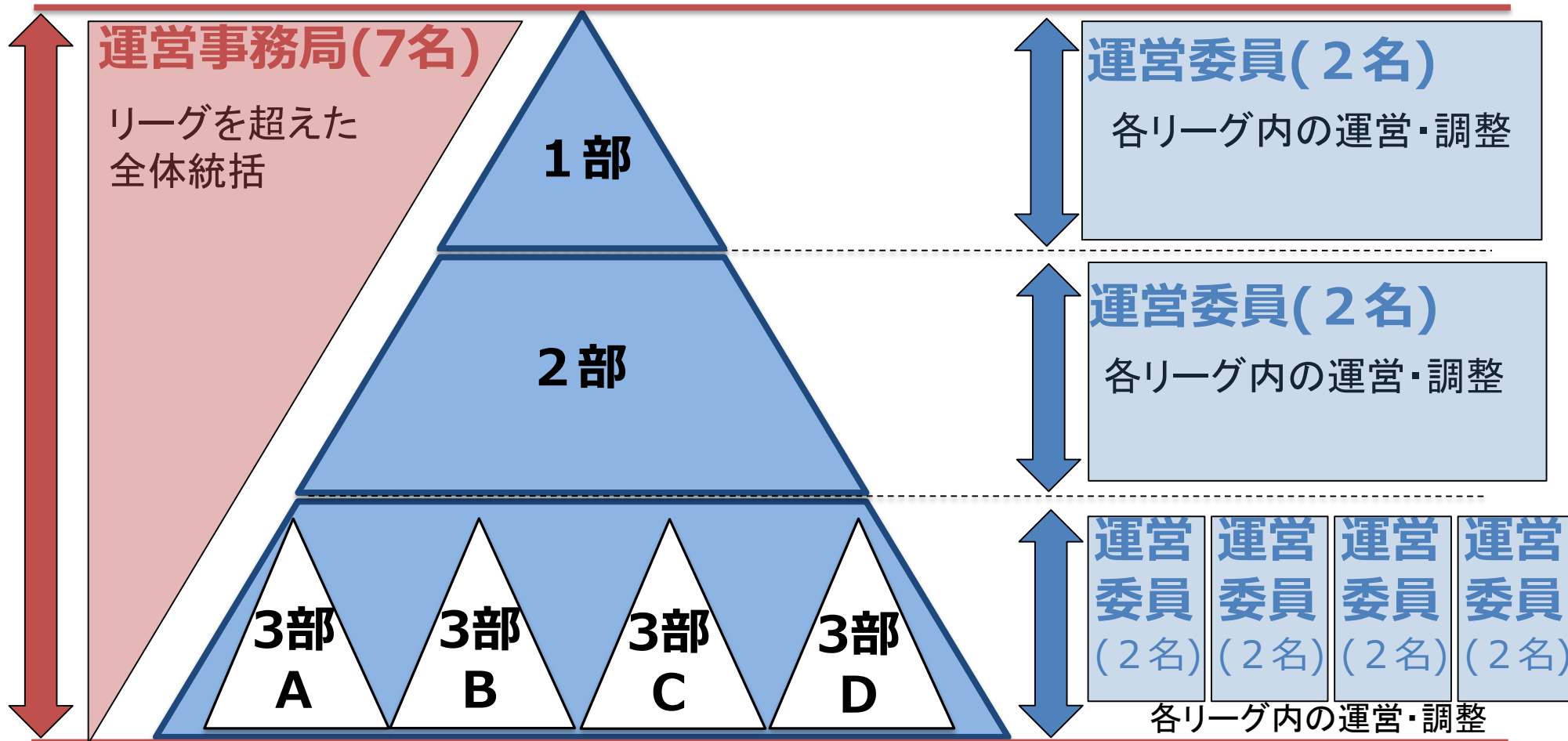
勝敗に関係なく参加
チームとしてゲーム
と自主運営を継続

上記、当日運営以外に必要な
事前準備・中期計画・年間計画を
各アンダーカテゴリー部会で準備するという考え方。

■ 都道府県リーグ運営イメージ



■ 人的配置イメージ



運営事務局 (7~8名)



県内リーグ全体の運営統括

運営委員 (2名×リーグ数)

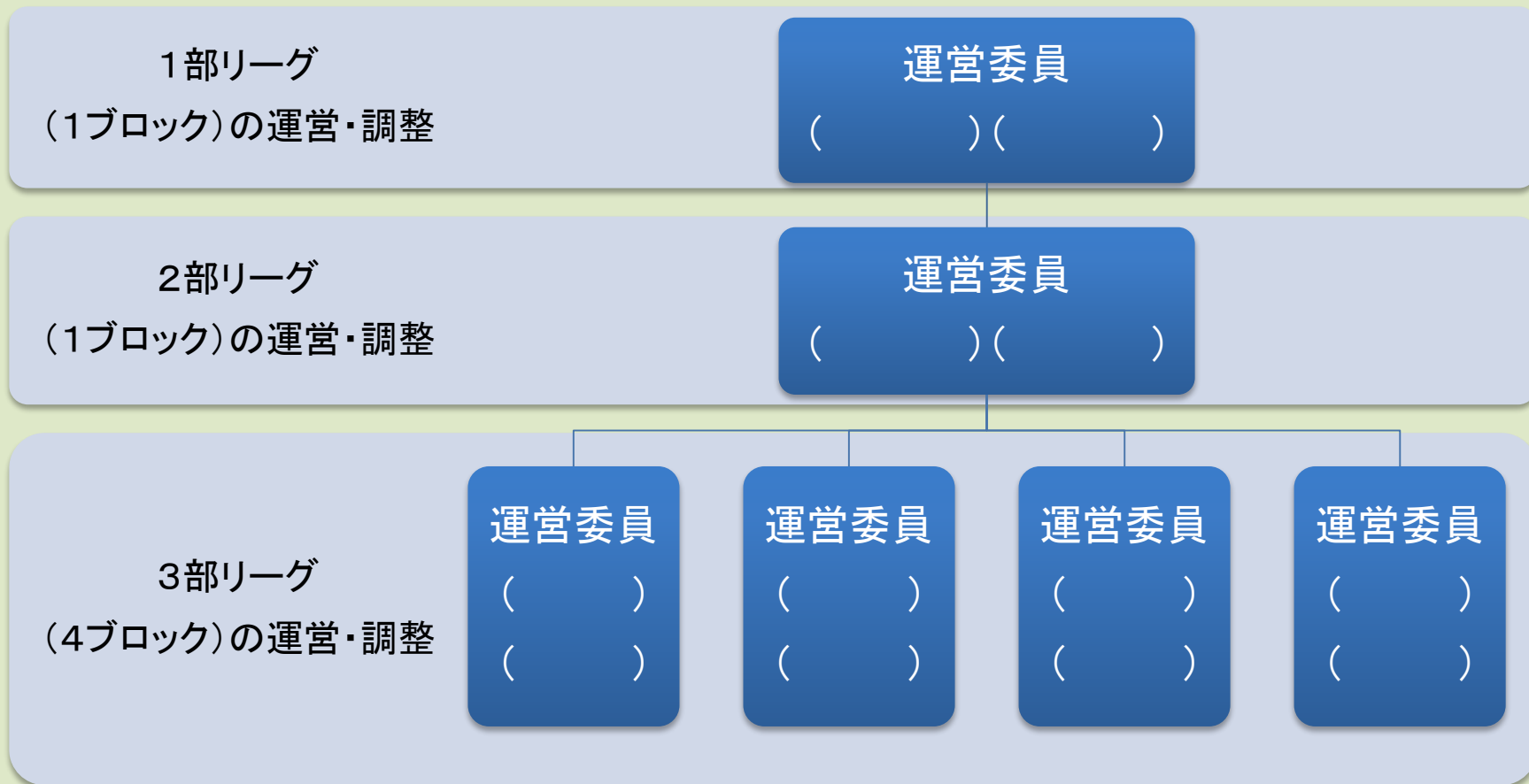


各リーグ内の運営・調整

■ 県内リーグ実施の人的配置の例

運営事務局 ※運営委員とは掛け持ちしない

委員長(部会長兼務) 副委員長() クラブ()
競技() 審判() 財務() 総務() 広報()



■ リーグスタートへ向けた設置手順

手順 1

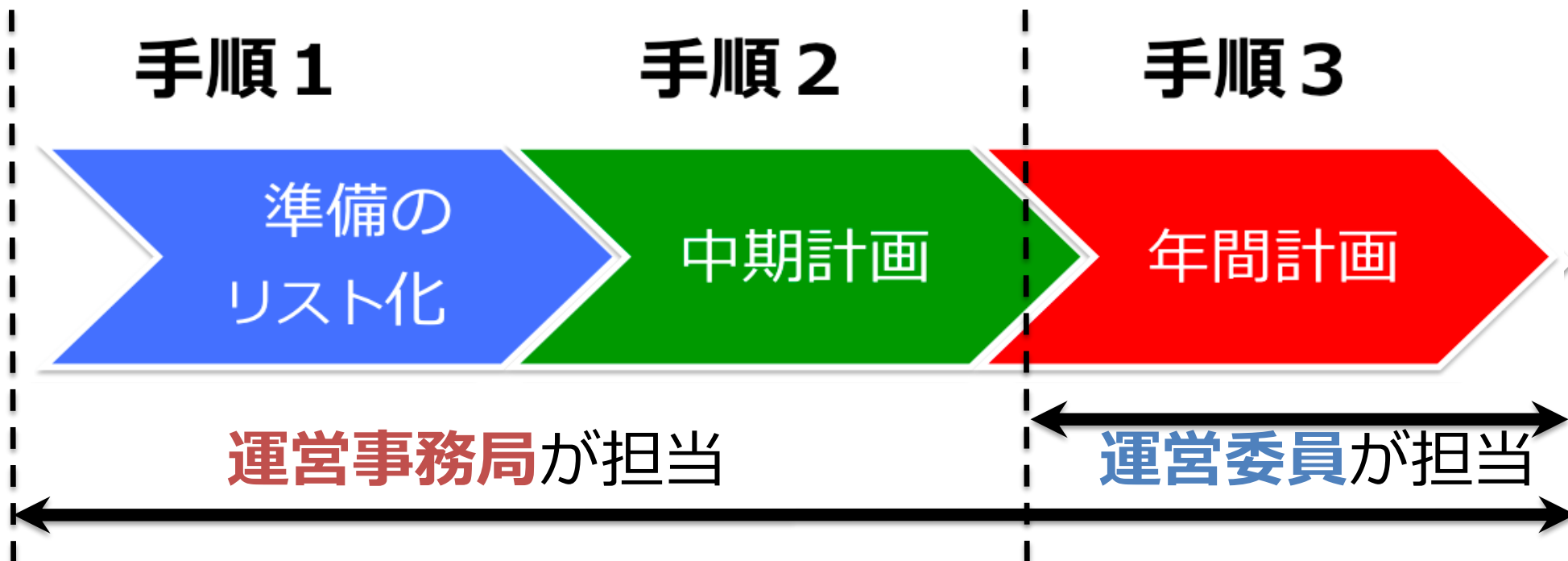
手順 2

手順 3



**リーグ運営事務局は
手順 1～3 でリーグ準備を進めます**

■ 人的配置と設置手順



運営事務局 (7~8名)



県内リーグの運営統括

運営委員 (2名×リーグ数)



各リーグの実際の運営・調整

※運営委員は必ず該当リーグ内から選出

■ 手順 1 準備のリスト化

準備の
リスト化

中期計画

年間計画

詳細作成ではなく全体把握のための項目確認

都道府県の実態に合わせ、以下 3 項目のリスト化

- 1 リーグ開幕前(準備段階)の必要項目**
(スケジュール・グループ分け等)
- 2 リーグ期間中に必要な作業項目**
(試合結果・試合調整の連絡方法等)
- 3 リーグ期間中のエラー発生時の解決手順**
(問題発生時の手順・決定の流れ等)

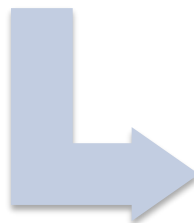
■ 手順 2 中期計画



準備年から完成年までの中期計画

準備年
(2017-2018)

- リーグ構造の共通理解
- 人的配置
- 会場確保、審判調整
- 日程案、要項作成
- 参加チーム調整



段階実施年
(2018-2019)

- 初年度リーグの評価
- オペレーション見直し
- 日程の見直し・調整
- 次年度参加チームの調整



実施年
(2019-2020)

- 2年目リーグの評価
- オペレーション見直し
- 日程の見直し・調整
- 次年度参加チーム調整

■ 手順2 中期計画 (2017~)



【U12カテゴリー 2018年5月開幕の準備例】

運営事務局

運営委員

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
リーグ準備		<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> →リーグ構造の共通理解 →人的配置 →会場確保・審判調整 →日程案・要項作成 →参加チーム調整 </div>						<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> この期間にリーグ編成を実施します </div>	<div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px;"> 前期リーグ期間 この期間に前期リーグの日程を入れ込みます </div>			
					<div style="border: 2px solid blue; padding: 5px;"> →日程・会場調整 →日程提示 </div>							
既存トーナメント							全国ミニ					

■ 手順2 中期計画 (2018~)



【U12カテゴリー 2018年-2019年準備例】

運営事務局

運営委員

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8		
リーグ準備	この期間にリーグ編成を実施します		後期リーグ期間 この期間に後期リーグの日程を入れ込みます						この期間にリーグ編成を実施します		前期リーグ期間 この期間に前期リーグの日程を入れ込みます			
	→ 前期リーグの評価 → 日程の見直し調整 → 日程・会場調整									→ 後期リーグの評価 → 日程の見直し調整 → 日程・会場調整				
既存トーナメント							全国ミニ							

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例**
- 5 共通レギュレーション

■ チーム数・試合数

チーム数	1周/1チーム	総試合数	2周/1チーム	総試合数
8チーム	7試合	28試合	14試合	56試合
7チーム	6試合	21試合	12試合	42試合
6チーム	5試合	15試合	10試合	30試合
5チーム	4試合	10試合	8試合	20試合

グループリーグのチーム数によって上記の総試合数の会場確保、日程確保、審判確保が必要となる。

■ 1日の運営例(8チーム 1日1試合)

16チーム(8チーム×2リーグ)が1会場2面使用で各チーム1日1試合の運営例

	時間	Xコート	Yコート
第一試合	9:00	A-B	a-b
第二試合	10:30	C-D	c-d
第三試合	12:00	E-F	e-f
第四試合	13:30	G-H	g-h

左記の運営日程を7日間確保すると下の①、②の2グループのリーグを1周(28試合)消化可能。

①リーグX

	A	B	C	D	E	F	G	H
A								
B								
C								
D								
E								
F								
G								
H								

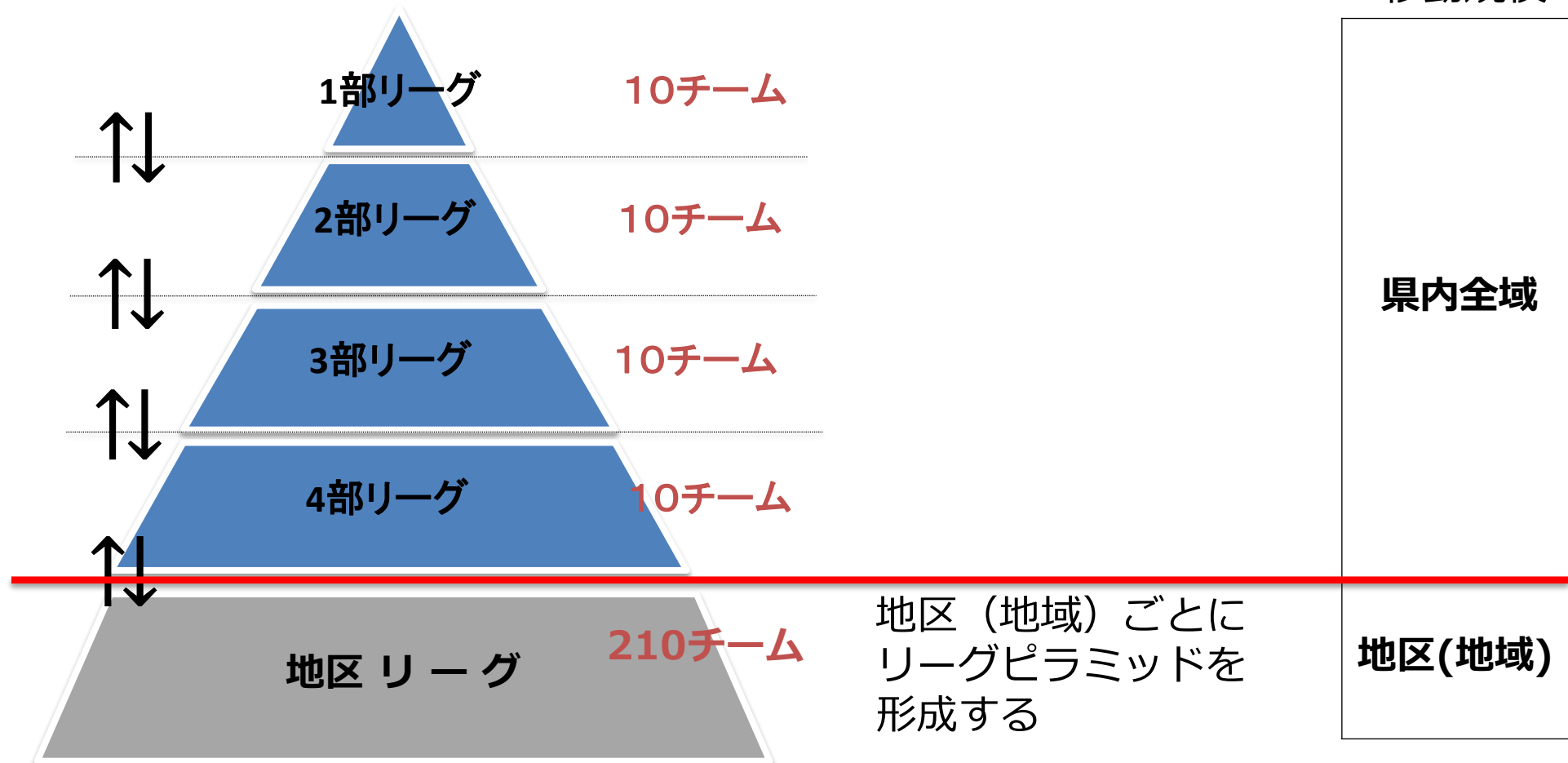
②リーグY

	a	b	c	d	e	f	g	h
a								
b								
c								
d								
e								
f								
g								
h								

体育館確保や他競技との共有利用に対応するためXコート1面の使用や第一試合の午後スタートなどの運営も可能

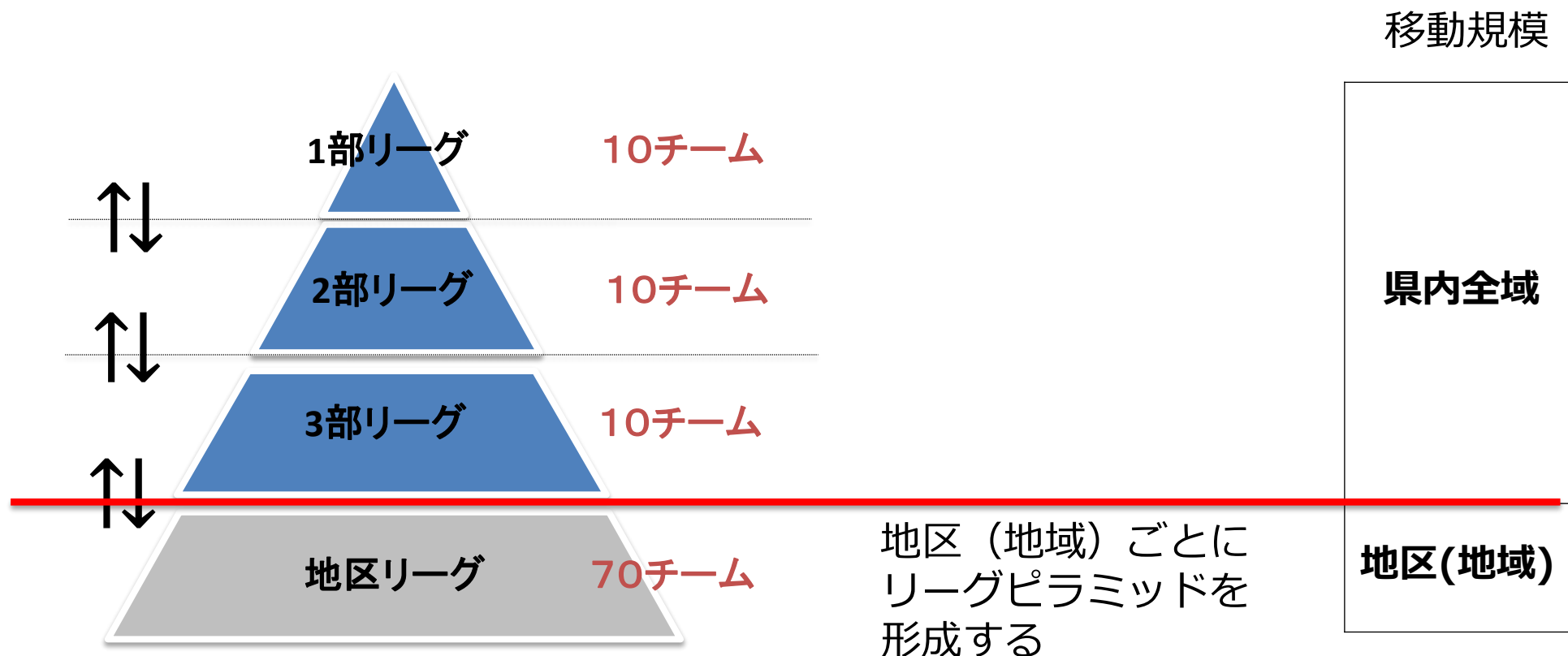
■ リーグ構造イメージ(登録チーム数250以上)

4部+地区



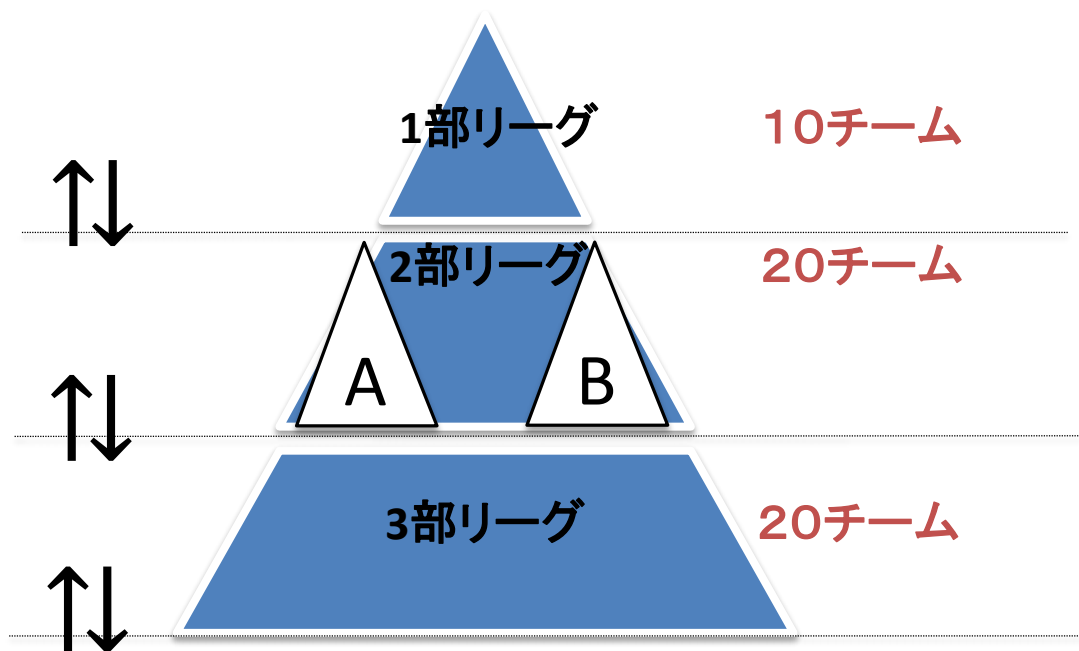
■ リーグ構造イメージ(登録チーム数100程度)

3部+地区



■ リーグ構造イメージ(登録チーム数 50 程度)

3部 (2部リーグ並列2ブロック)

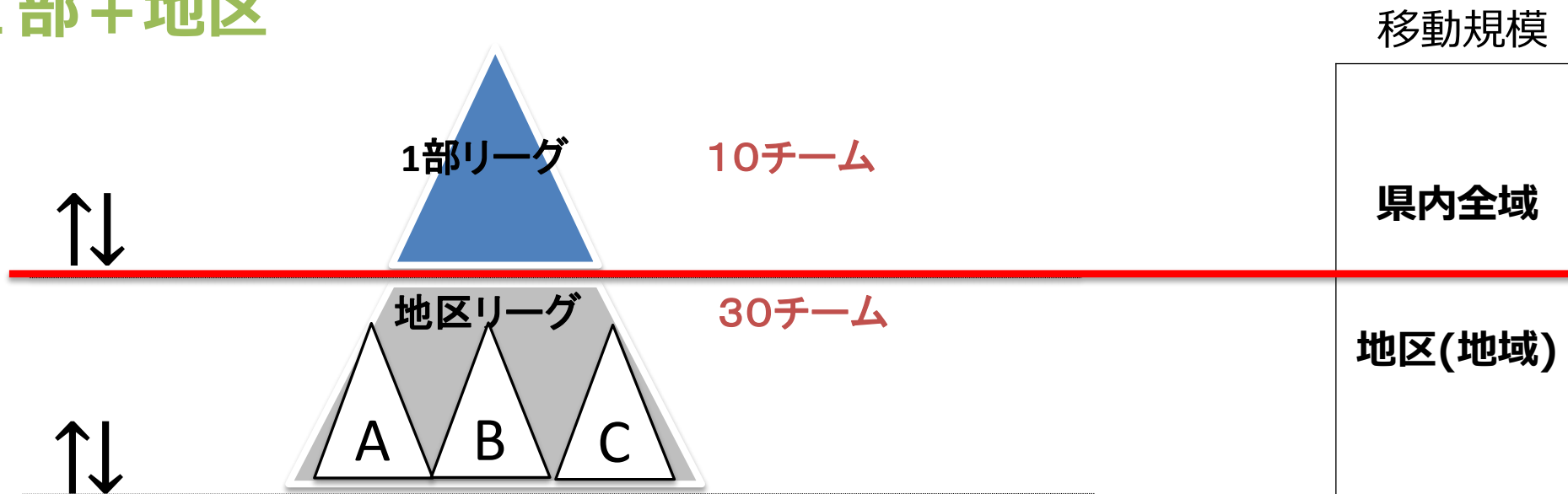


移動規模

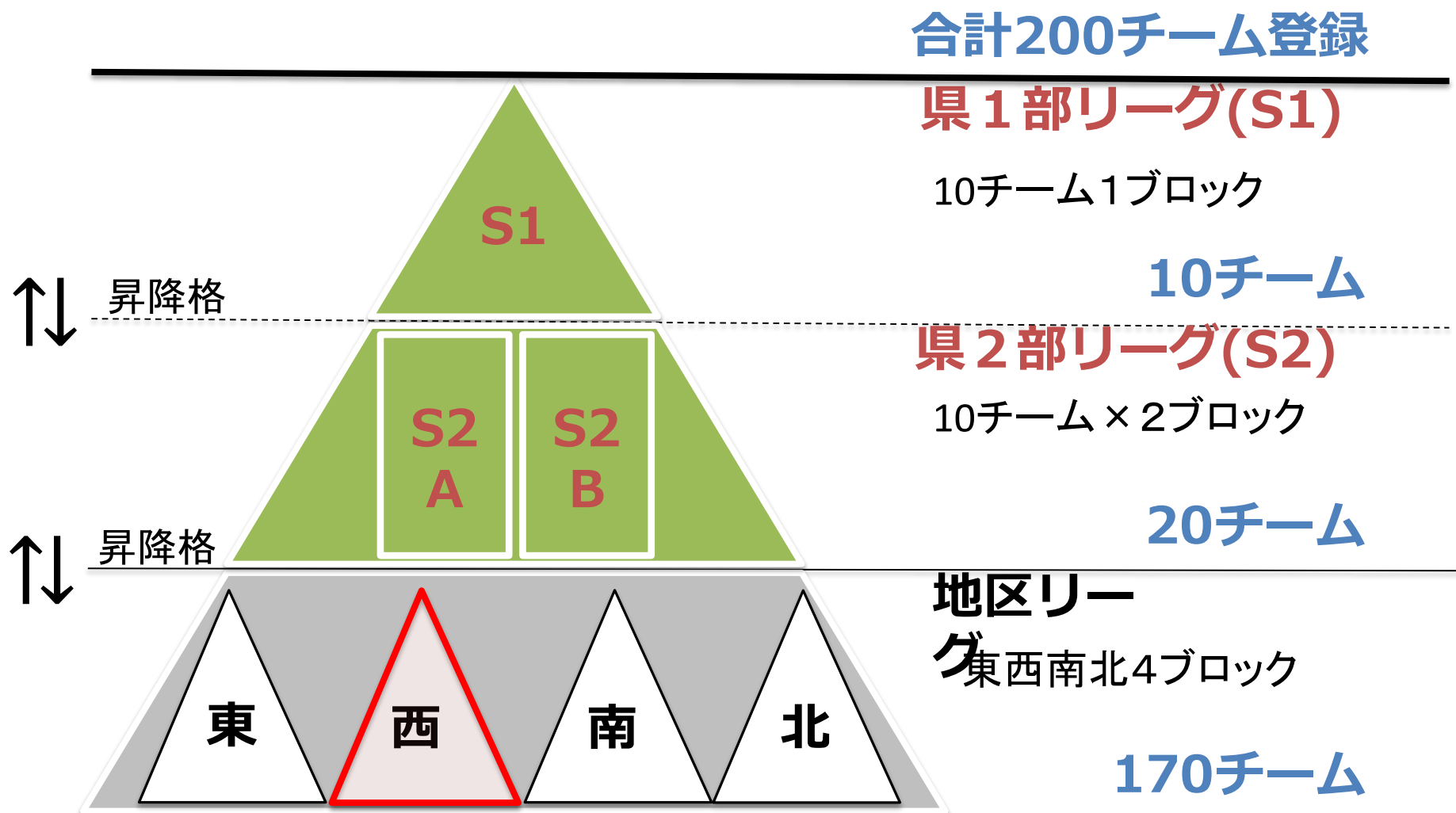
県内全域

■ リーグ構造イメージ(登録チーム数40程度かつ広域)

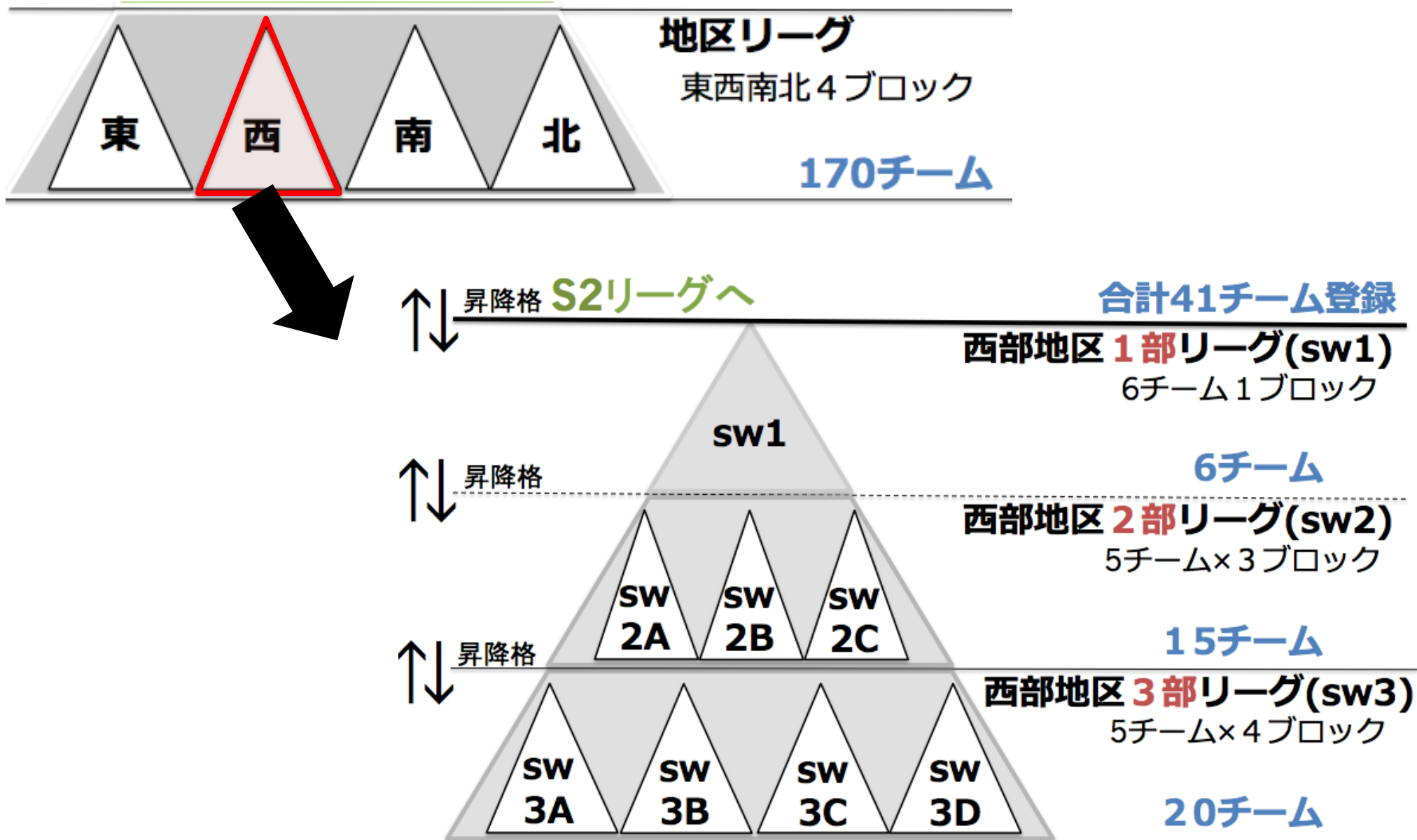
1部+地区



■ リーグ構造イメージ (S県リーグピラミッドの例)

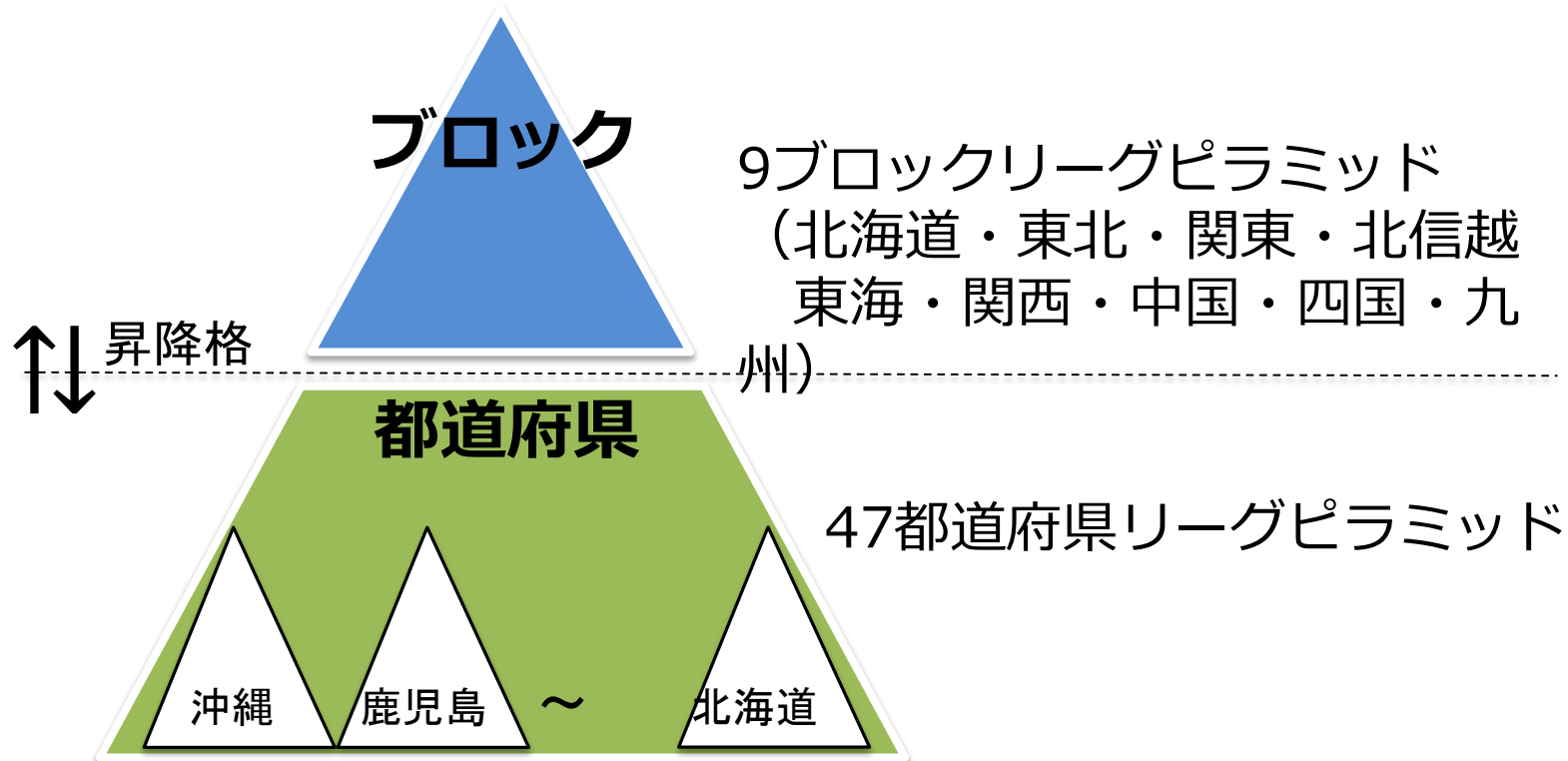


■ リーグ構造イメージ (地区リーグピラミッドの例)



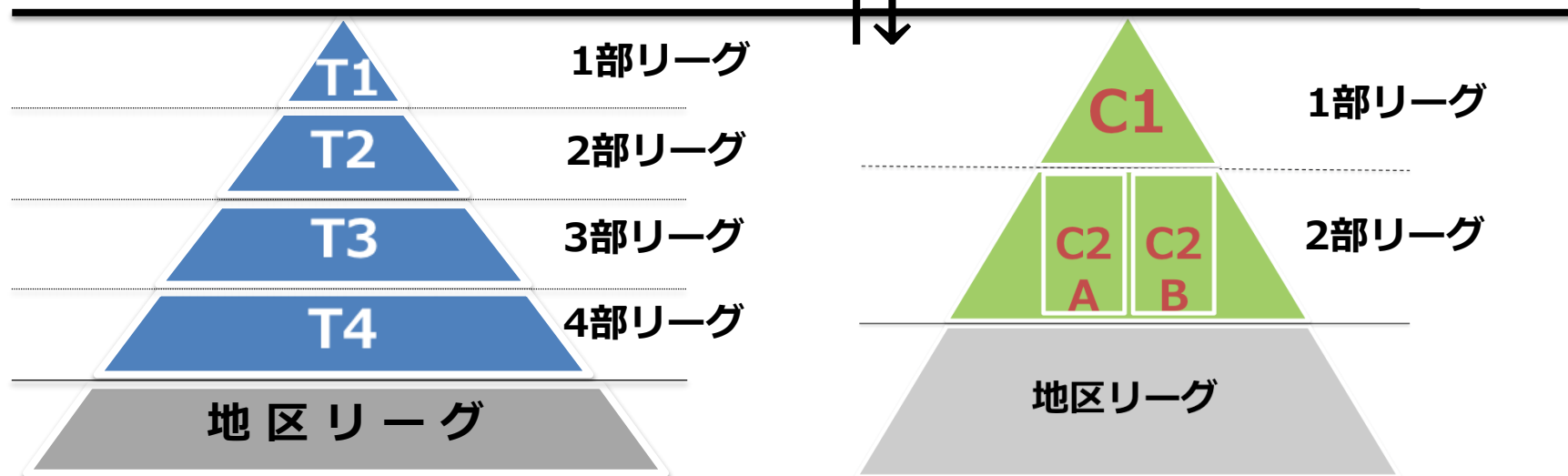
■ リーグ構造イメージ (ブロックリーグ設置案)

よりレベルの高い拮抗した試合環境のために
将来的にブロックリーグの設置を目指す



■ リーグピラミッド構造とグループ分け

関東ブロックリーグへ



T都リーグ（4部＋地区）

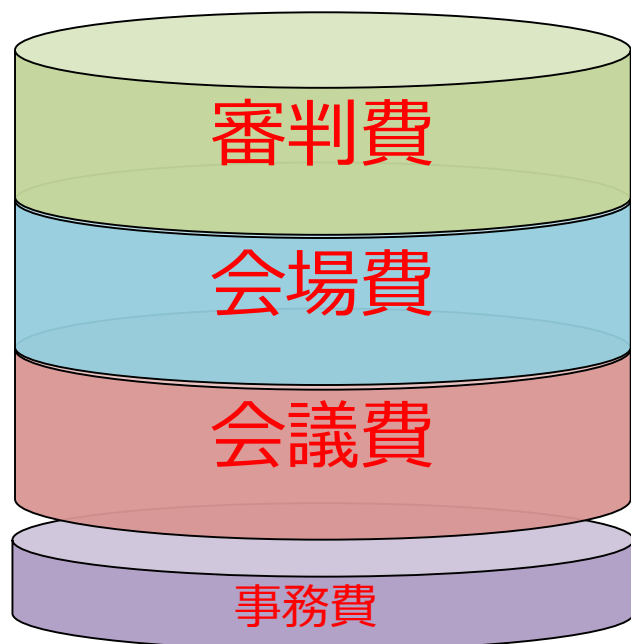
C県リーグ（2部並列＋地区）

リーグ構成が細かいいため上位リーグへの昇格に年数がかかる。その反面、同水準のチームでグループ分けができる

2部リーグが並列のため、1部昇格へのチャンスが広がる。チームのレベル格差が大きいと並列リーグが組みにくい。

■ 予算計画イメージ

リーグ運営における必要経費



該当チーム以外の運営協力としての審判費

公営体育館会場手配や学校会場提供による事前準備や調整等としての会場費

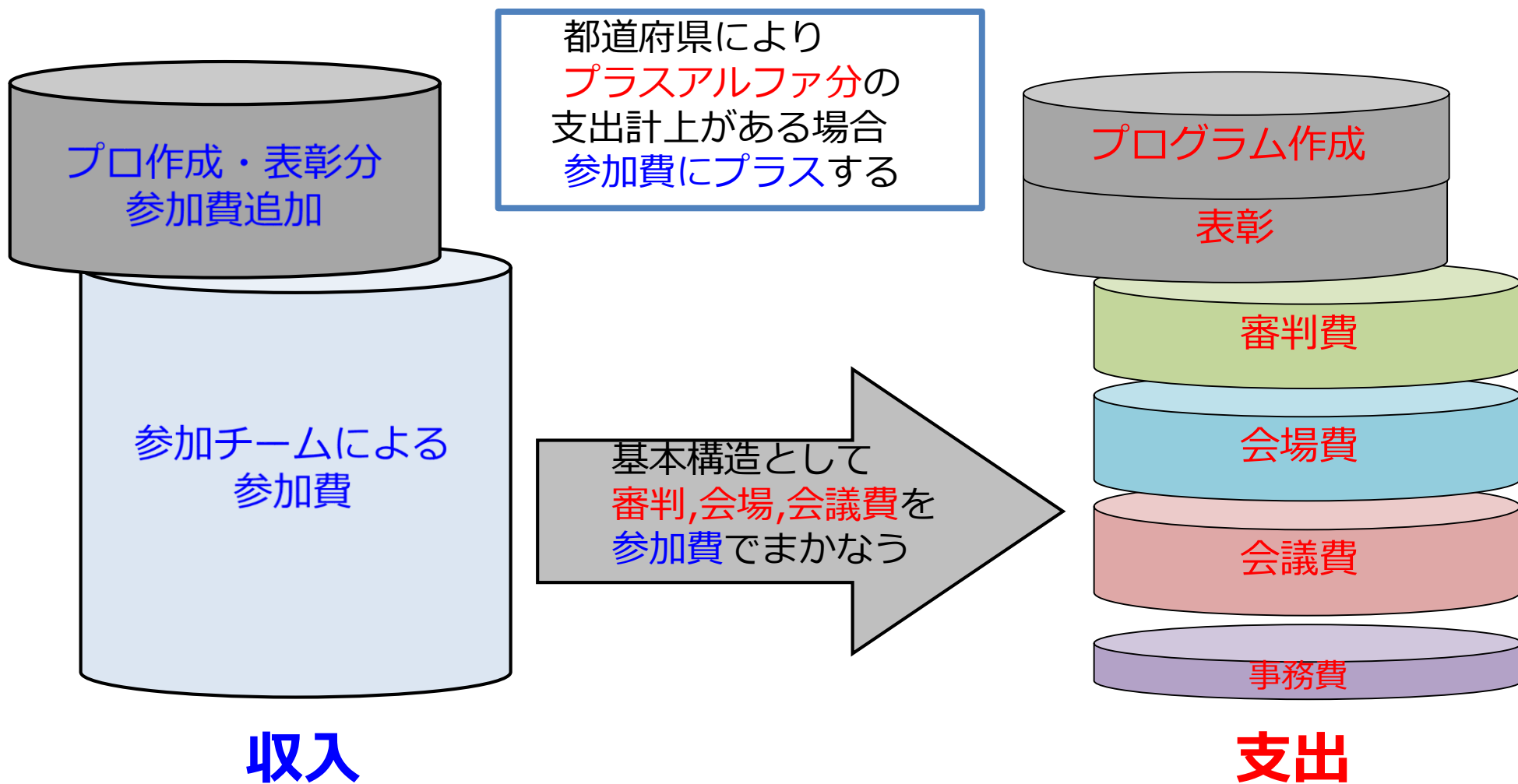
当日とは別日で実施する運営に関わる会議費

その他の諸費用

当日運営や参加チーム以外にかかる費用を支出と考える

■ 予算計画イメージ

リーグ運営における収入と支出



■ 予算計画イメージ

(参加チーム数：96チーム・12グループ・1回戦総当たり)

収入

項 目					金 額	備 考
参加費	種別	単価	チーム数	小計		県：8チーム×1リーグ、8チーム×3リーグ 地区：8チーム×2リーグ×4地区
	県リーグ					
	地区リーグ					
補助費	JBAより					
	PBAより					

合計

支出

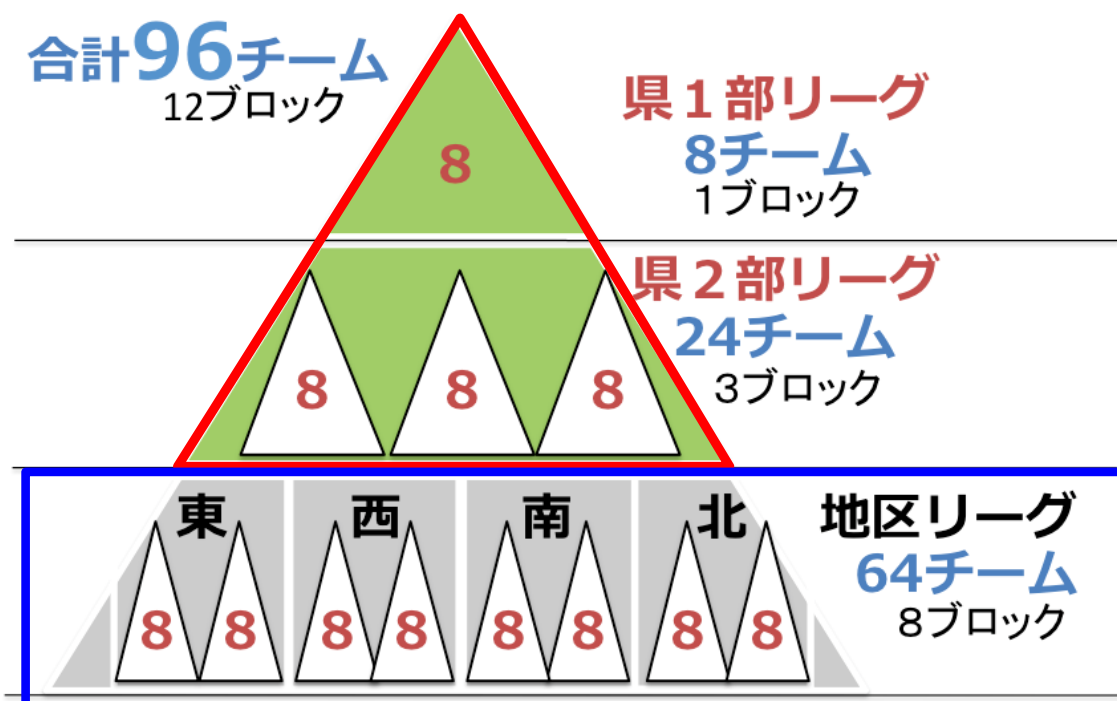
項 目					金 額	備 考
審判費	単価	個数	試合数	小計		
会場費	単価	個数	会場数	小計		
会議費	単価	個数	会議数	小計		
予備費						

合計

■ 予算計画 (収入イメージ)

項 目				金 額	備 考
種別	単価	チーム数	小計		
参加費	県リーグ	32			県：8チーム×1リーグ、8チーム×3リーグ
	地区リーグ	64			地区：8チーム×2リーグ×4地区
補助費	JBAより				
	PBAより				

合計



チーム参加費での
運営を基本とする

参加チームの交通費は
練習試合と同等と考え
受益者負担とする

■ 予算計画（支出イメージ）

項 目				金 額	備 考
審判費	単価	個数	試合数	小計	
			336		
会場費	単価	個数	会場数	小計	
会議費	単価	個数	会議数	小計	
予備費					

合計

総チーム数	総試合数
96	336

合計96チーム
12ブロック

県1部リーグ
8チーム
1ブロック

県2部リーグ
24チーム
3ブロック

地区リーグ
64チーム
8ブロック

リーグ		チーム	全1戦
1部	グループ1	8	28
2部	A グループ2	8	28
	B グループ3	8	28
	C グループ4	8	28
地区	東A グループ5	8	28
	東B グループ6	8	28
	西A グループ7	8	28
	西B グループ8	8	28
	南A グループ9	8	28
	南B グループ10	8	28
	北A グループ11	8	28
	北B グループ12	8	28

- 1 リーグ化の意義
- 2 既存大会とリーグの位置付け
- 3 運営と人的配置・設置手順
- 4 実施運営例
- 5 共通レギュレーション**

■ U12リーグ運営に際し以下を規定とする

- リーグ期間は、前期・後期の年間2ステージを設定する
- 選手の2つ以上のチームへの登録は不可とする（二重登録不可）
- 選手の登録チーム変更はリーグ期間中は不可とする
（前期リーグと後期リーグ間は可）
- コーチは、JBAコーチライセンスE級以上の資格保持者とする
- 審判は、JBA審判ライセンスE級以上の資格保持者が行う

■ U12リーグ運営に際し以下を推奨とする

- 複数チームエントリーの場合、2チーム目以降の登録人数を
10名以上とする
- 年間試合数を **15～20試合**以上とする
- U15チーム登録にU12選手の飛び級登録を可とする(**枠数〇名**)

■ リーグ戦運営事業としての条件

- 都道府県協会主催事業であること
- 参加選手がJBA登録をしていること
- ベンチで指揮を執る指導者はJBA公認コーチライセンスを取得していること
- 担当する審判員はJBA公認審判ライセンスを取得していること
- 原則として6チーム以上で構成されるリーグであること
- 1チームあたりの試合数が5試合以上確保されること

(D-fund申請ガイドライン対象事業条件より)

■ リーグ戦のスタートへ向けて

アンダーカテゴリー一部会協力のもと、各都道府県の実態にあわせた方法で、まずはスタートすることを目指して下さい。

スタートを切り、段階実施のなかで評価修正していくことがリーグ戦文化の醸成へとつながります。

私たちバスケットボールファミリー一人一人の力を合わせていくためのリードとご協力をお願いします。

育成センター推進 (長野県推進資料より)

2017/11 ユース育成部会長 山本 明

ユース育成委員会										
委員長: PBAユース育成マネージャー ●●●●●										
U12PBA				U15PBA			U18PBA			
コーチ		マネージャー	コーチ		マネージャー	コーチ		マネージャー		
男子	女子		男子	女子		男子	女子		男子	女子
県	○○○	△△△	□□□	○○○	△△△	□□□	○○○	△△△	□□□	PBA任命
地区A										PBA任命
地区B										PBA任命
地区C										PBA任命

事業運営担当部門は現状のユース育成組織を移行させる

アンダーカテゴリー部会								
組織長: ●●●●●								
U12部会			U15部会			U18部会		
U12部会長			U15部会長			U18部会長		
ミニ連盟	ユース育成M	中体連	中学生連盟	クラブ/Bクラブ	ユース育成M	高体連	クラブ	ユース育成M

※U15部会・U12部会にマンツーマン推進を置く。PBAマンツーマンディレクターも含める(2017現在)

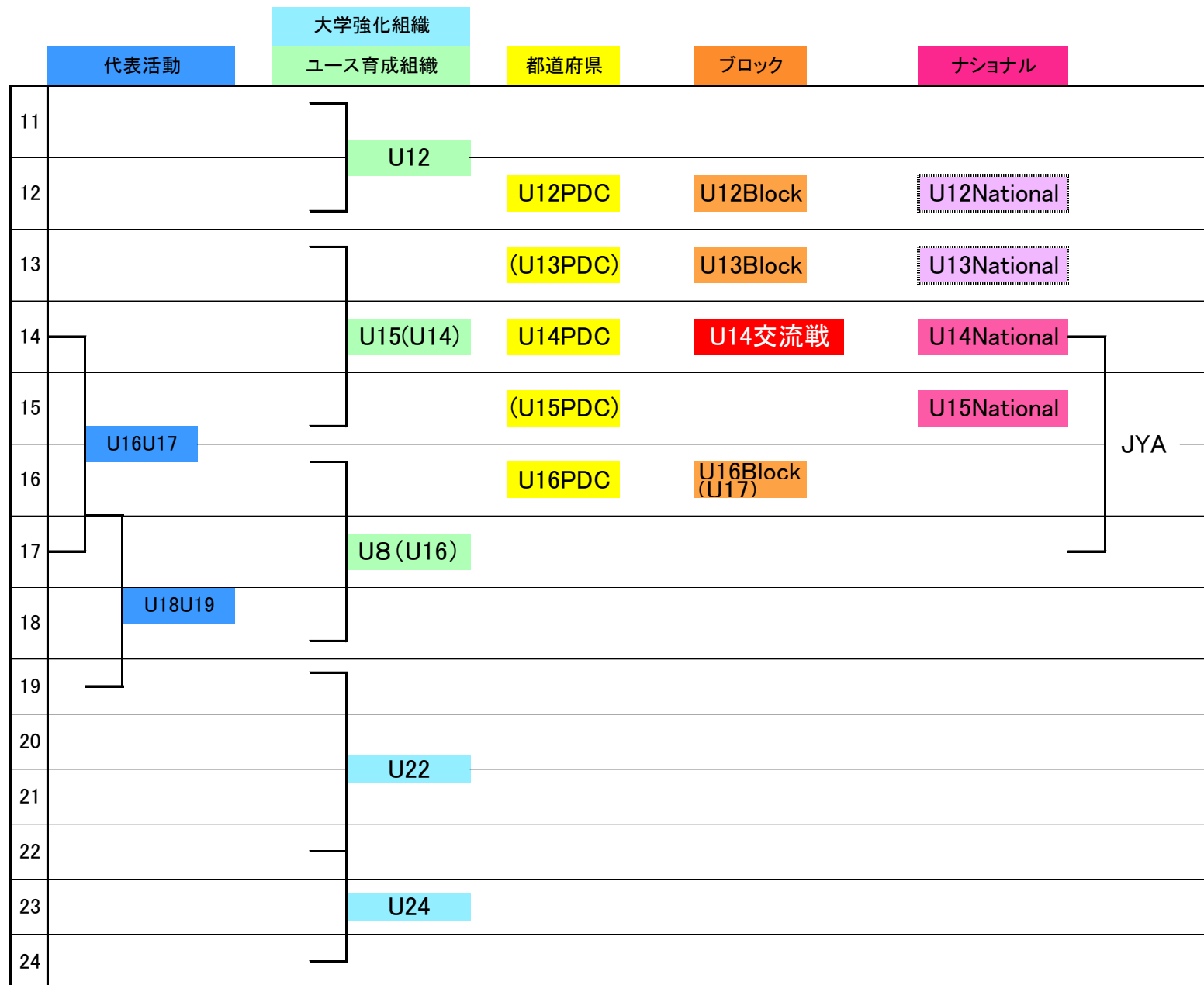
PBAにおける競技会(大会)運営等を担当する

■ 都道府県内にユース育成関連で2つの組織を作る

1) ユース育成委員会 : 育成センター事業担当

2) アンダーカテゴリー部会 : リーグ戦・大会運営担当

育成センターの設置とユース育成組織、代表活動との関連



育成センター（都道府県・ブロック・ナショナル）の設置

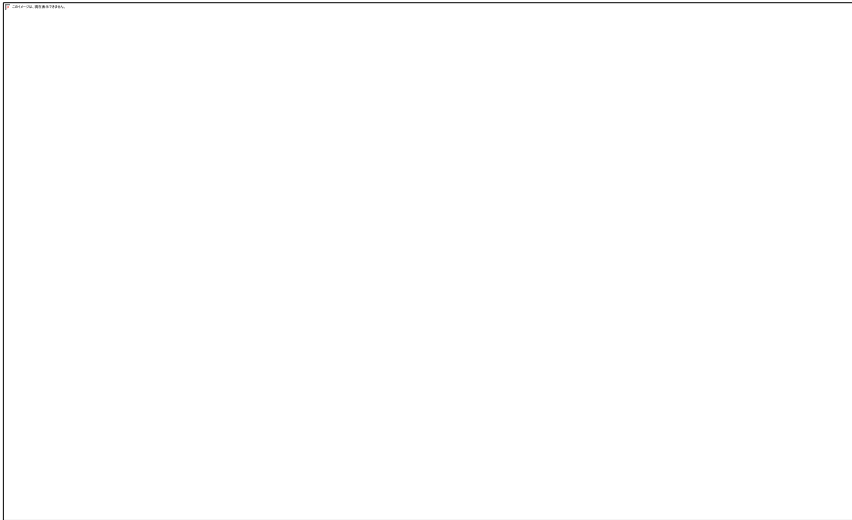


	県DC	調整会議	ブロックDC (ブロックライアウト)	調整会議	ナショナルライアウト	NDC
	時期	時期	時期	時期	時期	時期
U12	5-2月					
U13	5-2月		1月		9月第1週	
U14	5-2月				9月第1週	
U15	5-2月				9月第1週	
U16	5-2月		2月			

1, 県ユース活動の現状把握 既存の活動をまとめる

- ・U11
- ・U12
- ・U13
- ・U14
- ・U15
- ・U16

【例】

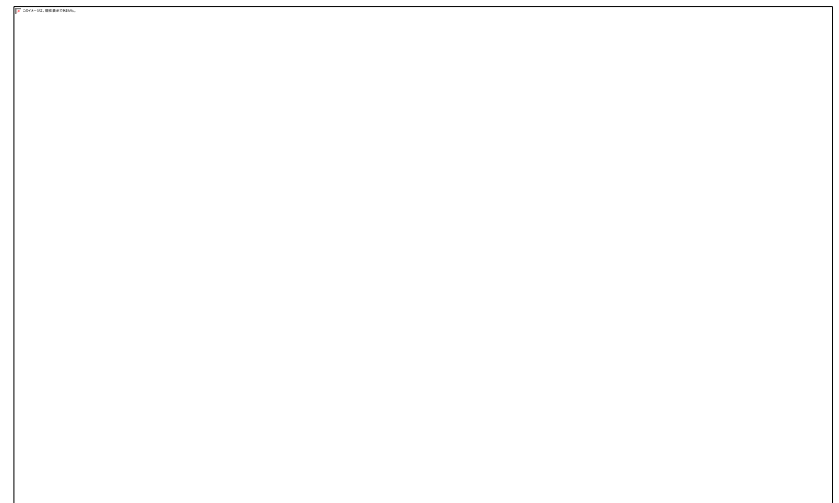
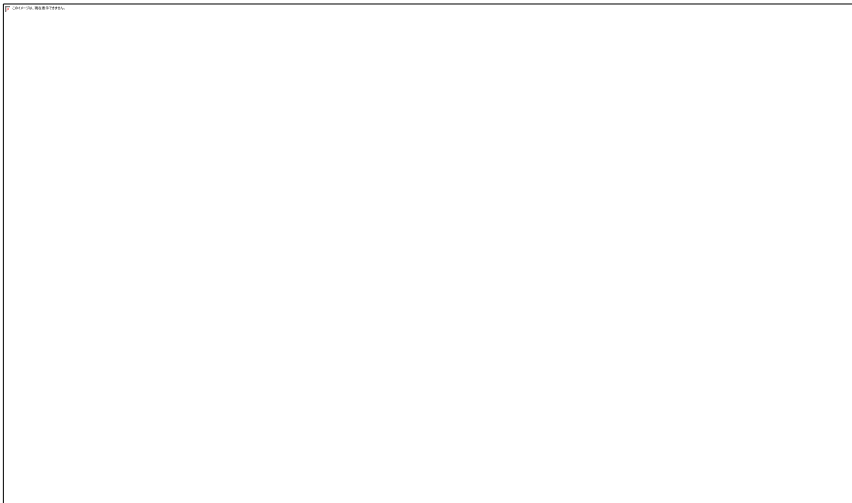


2, 実施の規模を決める

全体のレイアウトを作成 (既存の活動に追加する)

- ・カテゴリ決め
- ・地区割り
- ・経費試算 (参加料試算、全体経費 = 交通費・日当)
- ・全体日程
- ・スタッフ計画 (人数・人選)
- ・実施までの行程表

【例】



1, 実施要項作成

- ・開催要項
- ・運営要項
- ・旅費規程

■実施報告書と会計処理

- ・実施報告書作成 = フォーマット作成、単位毎の作成
- ・会計処理方法

2, 事業単位の日程案作成

- ・各カテゴリー別に日時・場所等の日程を作成する

3, 経費を捻出する (予算案)

- ・予算書の作成
- ・JBA・D-Fund A 交付金の申請
- ・選手参加料

4, スタッフの決定

- ・ライセンス保有者の確認
- ・人選作業と受諾確認 (U12U14U16ユース育成、ミ二連、中体連、高体連より推薦を受ける)
- ・本人の意思を確認する
- ・スタッフ名簿を確認する→理事会承認
- ・委嘱状発送

5, 選手への告知 (チームへの告知、HPにおける告知)

- ・U12ユース育成／ミ二連盟 (全てのチームへの連絡)
- ・U14ユース育成／中体連 (全ての中学校に配信)
- ・U16ユース育成／高体連

6, 諸会議および各団体(県協会内の他部署も含む)との調整

- ・県協会ユース育成委員会(U12U14U16)
- ・ミ二連盟
- ・中体連
- ・高体連
- ・Bクラブユース
- ・県協会国体強化・指導者養成
- ・アンダーカテゴリー部会
- ・都道府県体育協会
- ・地区バスケットボール協会

1, コーチ研修会 (4月)

- ・全スタッフ招集
- ・要項確認
- ・指導上のポイント
- ・指導内容の告知

■スタッフ確定

- ・スタッフ名簿の整理、確定 (人事異動の関係有り、3月中旬に最終決定)

2, 選手選出および選手名簿の作成

- ・事業単位ごとに提出

3, 実施および実施報告書 (収支報告書を含む)

- ・事業単位ごとに提出

4, 検証および会議

- ・ディレクターの確認
- ・県ユース育成委員会

内容：実施状況報告 実施報告書 参加報告書 課題と対応まとめ

- ・U12総括会議
- ・U14総括会議
- ・U16総括会議

内容：実施報告書 会計中間報告

■課題に対する対応

- ・2019年度計画案
- ・問題への対応
 - 選手を輩出しない指導者がいた場合
 - 育成センターコーチに問題が起きた場合
 - 選手選考等に関わる保護者のクレームがあった場合
- ・新スポンサー獲得

■県協会への提出

- ・事業計画書・中間まとめ
- ・コーチおよび選手名簿の提出

■開催要項

- ・目的 名称 主催 主管 日程 会場
- ・参加資格：JBA登録 外国籍でもよい 学校における学年 飛び級を認める
- ・選手参加料：徴収する
- ・参加人数：20名程度
- ・指導者：コーチライセンスを有する者、任命された者
- ・その他：運営にあたって運営要項を定める

■運営要項

- ・目的
- ・運営スタッフ：全体総括 カテゴリー総括マネージャー
事務局を兼ねる カテゴリー内活動の掌握 カテゴリー間連携を強化し選手の情報共有を行う
会計処理 年度ごとに予算案と決算報告 予算執行にあたっては執行手順に従う
- ・年間計画作成と実施報告書の提出
- ・名簿作成
- ・運営費・経費管理
補助金(Dファンド等)と参加料の管理
運営費：施設使用料 事務経費 スタッフ旅費 日当 会議費 保険料
ブロック交歓会の遠征：別途会計報告 特別な場合は参加料を徴収することができる
- ・保険
- ・会計報告
- ・選手の参加規定
- ・スタッフ規定
- ・安全対策と緊急対応マニュアル

■支出規定

- ・支出項目：旅費 日当 会場使用料 消耗品費 会議費 雑務役費 保険料 (D-Fund支出基準に準ずる)
- ・支出対象者：指導スタッフ マネジメントスタッフ
- ・対象とならない経費：懇親会費、酒宴費用 一人1000円以上の弁当代 支出対象者以外の費用
個人所有となる備品・消耗品費 スタッフ・選手のウェア代(ビブス含む)
選手・引率保護者の旅費
- ・経費総額と参加料：運営経費総額に対して選手参加料の割合が65-75%になるように設定すること

■ U12・U14・U16育成センター設置

→2018年度準備(実施推奨)

→2019年度実施目標

※ 都道府県の実態に合わせて準備、実施を目指していただく